

はじめに

北海道の農業は、豊かな自然と広大な農地を活かし、農業者をはじめ多くの関係者のたゆまぬ努力のもとに、食料の安定供給や国土保全といった重要な役割を果たしながら、地域経済を支える基幹産業として発展してきました。

しかし、一方では、農業の国際化が進展する中で、BSE(牛海綿状脳症)の発生、食品の偽装表示など「食」の信頼を揺るがす出来事の発生、米をはじめとする農産物価格の低下や担い手の減少、高齢化の進行など、様々な課題に直面しています。

こうした中で、国においては、新たな「食料・農業・農村基本計画」を決定し、この基本計画のもとで、食の安全と消費者の信頼を確保することや環境保全を重視し、農業生産活動に伴う環境への負荷の軽減を図るなど、農業の構造改革を進めることとしております。

この「食」の安全、「環境」の保全の確保につながる先駆的な環境保全型農業の取り組みである、畦にハーブを植えて農薬の使用を減らす米づくりが、美唄市内で無農薬・減農薬米などを生産するグループ「元氣招会」の代表者今橋道夫氏のもとではじめられ、今日、この取り組みは、空知管内をはじめ全道各地に広がっているところです。

美唄市においては、道や市などの支援のもとに、平成10年から、JA みねのぶ管内やJA びばい管内の水田の畦や用水路、道路などに20万本以上のハーブが植栽されており、水田からかすかにミントの香りが漂う「香りの畦みち」が年々増えている状況です。

こうした環境保全型農業の取り組みを、消費者などへしっかりと情報発信するとともに、技術水準を高め、この取り組みを普及し、生産者をはじめ農業関係者を挙げてハーブによる米のブランド化を推進するために、「ハーブでお米フォーラム in びばい」を札幌開発建設部や空知支庁など12の機関・団体のご後援をいただき開催することといたしました。

今回のフォーラムは、ハーブ植栽発祥の地である美唄市において初めて開催しますが、消費者と生産者が「食」を通じて強い絆で結ばれ、「環境」と調和しながら持続的に発展していく空知、さらには、北海道の農業・農村の礎となれば幸いに存じます。

平成17年6月18日

ハーブフォーラム実行委員会
実行委員長 酒 巻 進